

～ 私達は介護のプロを応援します ～

平成27年度 介護労働講習

(実務者研修を含む)

実施期間 平成27年6月2日～11月12日

修了おめでとうございます！



公益財団法人 介護労働安定センター 岐阜支所

※掲載している写真、氏名等の個人情報につきましては、予めご本人の承諾を得て掲載しています。

【講習の実施風景】



座学・演習・生活支援技術など



グループワーク
小グループに分かれて
医療的ケアの学習中

一人で行う場合のシーツ交換
介護技術の演習

講師の指導にみんな真剣な顔
で聞き入っています。
自信が付きまで何度も繰り返し
練習を行いました。



科目修了ごとに**評価試験**あり
試験の事前練習中



就職ガイダンス

実務者研修や見学実習
などが修了してくる
と・・・
就職活動に向けた支援
カリキュラムの最終課
程です。
介護事業所の方から直
接話を聞くことが出来
ます！！



【講習を終えて】

今年は 24名の受講者が講習を修了し、それぞれの道へ進んでいきました。

そんな修了者の感想をまとめましたので、ご紹介いたします。

介護の仕事には以前から興味がありましたが、基本知識や技術が無いまま踏み込むのを躊躇していた時に介護労働講習のを知り、介護福祉士の資格取得の希望も含めて思い切って申し込みました。当初は「本当に大丈夫だろうか？」と不安でいっぱいでしたが、講師の皆さんや受講者の仲間に支えられて無事に修了出来たことが大きな喜びに変わりました。これからは、介護の世界で頑張っていきます！！

自分が考えていたよりも勉強することが多く大変なこともありましたが、深く「介護」について学べたことは貴重でした。振り返れば講習の開始時に比べて、福祉・介護に関する分野での理解度が全然違うことに気づきました。実際に介護現場で働くことになれば教科書どおりにはいかないと分かってはいますが、基礎を学んで身に付けていることを心の支えにして頑張っていこうと思っています。

前職の定年退職後に新たな挑戦と思い飛び込んだところでしたが、6月の開講時に過去の職業経験とは全く異なる介護の仕事については正直不安でした。それでも介護労働講習を修了してみると、世代を超えた新しい仲間との出会い！介護の厳しさとやりがいを知り、人の役に立てる仕事であるとの思い！このような気づきを感じとても新鮮な体験でした。第2の人生に向けて自分の目標を見つけることが出来ました。あっという間の6ヶ月間でしたが楽しかったです。ありがとうございました。

【修了者へ贈る言葉】

受講者24名全員が修了式を迎える事ができ、とても嬉しく思います。そして皆さん本当におめでとうございます。

受講者の皆さんの声として「学校を卒業して以降こんなに勉強したことはなかった！医療的ケアなどの実技試験は本当に苦しかった！でも講習で出会った仲間の支えがあって修了することが出来た！！」ということが一番多くありました。年齢も、今までの職種も違う人達が一つの志(=資格を取得し介護の仕事に就く)を持って過ごした時間は一生忘れられないものとなり、またこれからも共に支え合い助け合っていくことを期待します。更に、講師の方々、実習先の事業所職員の皆さん、講習会場の職員の皆さんへの感謝の気持ちも決して忘れないでください。

これから就職という目標に向かって、今度は自分自身の力で人生を切り開いていくことになる皆さんに対して、最後にシンガーソングライターのスガシガオの歌「PROGRESS」の一節を贈る言葉としたいと思います。 **“あと一歩だけ 前に進もう！”** 岐阜支所長 より



【就職先をたずねて】

事業主さまの声

医療法人 清光会 介護老人保健施設 巢南リハビリセンター

事務長 広瀬 美知雄 氏



Q:採用した決め手などは？

A: 介護の仕事が「好き」と言うことをはっきり伝えてくれて、はじめから介護の仕事に就くことに強い信念を持っていました。家庭との両立を考え、且つ、使命感をもって勤務できる人と判断しました。

Q:普段の仕事ぶりはどうですか？

A: 「もの分かりが早い」「いつも笑顔」が印象的です。一人立ちできたと判断した職員には、遅番(夜勤)勤務をお願いすることとしていますが、早くから対応ができるようになり、助かっています。

また、介護労働講習で医療的ケアを修了しているので、喀痰吸引ができる資格(実地研修受講)も本人の希望により取得してもらいました。この1年で既に喀痰吸引もでき、遅番を任せられる職員として成長しました。

他の職員から目標とされる人材として期待しています。

Q:講習の内容などについてのご感想は？

A:介護分野の活躍の場は、広がってきています。また、在宅支援が中心となっていく中で、医療と介護との連携が益々重要となります。現在の急激に変化していく環境を踏まえると、介護労働講習のように、しっかりした知識と技能の基本を学ぶことができる講習をもっと多くしていく必要があります。

改めて介護の仕事を目指す人が、彼女のように頼もしく成長できる土台を構築してもらえるこの講習に大いに期待しています。

講習の実習生も来てもらい、熱心に勉強されていました。時間的制約もあると思いますが、施設、通所、訪問の実習期間をもう少し長くして、「現場を知ってもらう」ことも大事と思いました。

Q:これから受講される方へのメッセージをどうぞ

A:なんと言っても、介護は人を支援する仕事です。「人が好き」「人を支えるのが好き」な人でないと長続きしません。また、職場内や利用者の皆さんとのコミュニケーションも大切です。

これから受講される方は、介護の仕事は奥が深いことを受講後に感じていくことを想定し、受講中に学んでおくべき基本を身につけて下さい。同時に、「人を助けるとはどういうことか？」を常に自問、自答しながら研修を受けていただきたいと思います。



就職者の声

安西 美和子 さん 平成26年度修了

Q: 講習で学んだことは？

A: 最初は、介護職の職務内容は「お年寄りのお話し相手」という認識でした。もっと言えば、「楽しそうだな」という感覚でした。しかし、講習で、医療的ケアのカリキュラムもあり、介護の知識・技術は、人の生命と関わることを学び、徐々に介護の奥深さを感じました。できれば受講中には気付けなかったことについて、もう一度学び直したい気持ちになります。特に、認知症の利用者さんとの関わりについては、受講により得た知識だけでは現場の事実とのギャップを掴めなかったので、まだまだ勉強すべきことが多くあります。



Q: 実際に介護のお仕事に就かれた感想は？

A: 最初のうちは、利用者さんと触れ合う時間が中々取れませんでした。少ない時間の中で、利用者さんとうまくコミュニケーションを取ることが難しかったです。また、体力的にも余裕がない時もあります。でも、私は、「お年寄りのお話し相手」が好きです。介助しているときに「ありがとう」と言ってもらえるのが、本当にうれしいです。また、食事を摂れなかった利用者さんが摂れるようになった時には、やりがいを感じます。

この仕事をしていくには、今まで以上に自分自身の健康管理が大切であることを強く感じ、自己管理に気を付けています。

Q: これから受講される方へのメッセージをどうぞ

A: 私は、漠然とはありますが、「介護の職に就きたい」と思っていました。介護労働講習との出会いがあり、運良く受講できましたが、入校する前から「介護現場で働いている自分の姿(介護の制服を着て動いている)をイメージしていました。私のように家庭との両立を前提にしたとき、仕事内容や、勤務体系について家族の理解、協力なしでは勤まりません。この講習を受けることは、すなわち介護の現場に就職するということを受講前から想定しておくべきと考えます。

受講が決まったら、介護労働安定センターの指示に従い、カリキュラムに則ってしっかり学んでいけば良いです。特に女性の場合は、家事・育児等で、修了評価等の際の事前勉強時間が中々取れない時もあるかと思いますが、一緒に受講している仲間と支え合い、教えあって楽しい6か月間として下さい。私は、本当に楽しい6か月間でした。今でも、一緒に受講した仲間と会って近況報告会をしています。いずれにしても、この講習は絶対お勧めです。介護福祉士受験を目指すことが前提の方は勿論のこと、医療的知識も含めしっかりと学べるので、就業後すぐに次のステップ(痰吸引の現地研修)へ進める候補者となる等の実績から、介護事業者の方の期待も大きいと感じます。頑張って、日本の介護を支える一員となりましょう。

